名古屋大学附属図書館報　　ISSN 0387－477X

鶴燈

No.182　2012. 1. 15

http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/

目　次

近代医学の黎明 デジタルアーカイブ …… 1
水田文庫付属資料等調査
（1851年以降刊行図書）について …… 5
≪ブックトーク≫
新年度に向けて学生に読んで欲しい本 …… 8
図書室紹介：ようこそ法学図書室へ …… 9
秋季特別展
「そろばんと和算書」を開催しました …… 11
ホームカミングデイ図書館行事 …… 11
本学教員著作物の寄贈リスト …… 12

近代医学の黎明 デジタルアーカイブ

― 医学部史料室へのご招待 ―

蒲　生　英　博

はじめに

いきなりですが、拝領膚着（はだぎ）って一体どのようなものかご存知でしょうか？　華岡青洲に学んで尾張の地に漢蘭折衷外科をもたらした三村（みむら）玄澄（げんちょう）が尾張藩第10代藩主の徳川斉朝（なりとも）から拝領した膚着なのですが、ご覧になりたくないですか？

名古屋の西本願寺別院に開かれた病院に教師として迎えられたドイツ系アメリカ人のヨングハンスの雇用契約書は英語で書かれていたのでしょうか？

1882年（明治15年）、板垣退助が岐阜で遊説中、暴漢に襲われて負傷した時に診察した医者が誰だったかご存知ですか？　実は、当時、名古屋大学の前身校である愛知医学校の校長で、後に内務大臣となり関東大震災後の東京の都市復興計画を立案した後藤新平が駆けつけて治療したのでした。

名古屋大学は1871年（明治４年）に、現在は名古屋市中区丸の内で、愛知県産業貿易館となっている旧名古屋藩の評定所跡地に仮病院が、また旧名古屋藩の名古屋町奉行所跡地に仮医学校が設立されたことに始まります。

医学部史料室は鶴舞キャンパスの医学部図書館の４階にあり、名古屋大学創設前後からの本学医学部及び東海地区における医学の歴史的発展過程、さらに広く医学史、医療史に関係する資料などを収集し展示することを目的とした教育的施設です。拝領膚着や、名古屋大学最初の外国人教師であり、日本で最初の皮膚移植手術を施したことでも知られるヨングハンス（T. H. Yunghaus）の契約状や、愛知医学校初代校長の後藤新平に関する史料など、古文書から写真、絵画、医療器具まで所蔵しています。

「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」は医学部史料室に所蔵している近代医学黎明期の史料をデジタル化したものです。インターネットで公開することで医学史、医療史の研究に役立てていただくだけでなく、若い世代が医学に関心を持つ契機とする教材としての活用や生涯学習の教材としてのご利用も期待しています。

図１　トップ画面

1．デジタルアーカイブの概要

「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」は2010年10月にプロトタイプを公開後、2011年12月からは正式に公開しています。アドレスは次のとおりです。

http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/

現在、江戸時代中期から1944年（昭和19年）までの史料の中から50点ほどをご覧いただけます。

それでは実際の画面を見ていただきながら概要をご紹介します。

図１のトップ画面では医学部の歴史を左の各項目から読むことができます。また右上の検索窓からアーカイブ内を検索することができます。この画面に使用した「明治初年愛知県公立病院外科手術の図」は名古屋大学の二人目の外国人教師であるローレツ（Albrecht von Roretz）の依頼により、愛知県出身の浮世絵画家である柴田芳洲が描いた絵です。左端の襷に眼鏡で麻酔をかけているローレツは、日本語表記として「老烈」を使っていた自身の好みなのでしょうか老人に描かれていますが、この時30歳そこそこの青年医師でした。中央の片膝立ちの執刀医が後藤新平で、患者の右腕を支える和服に襷姿が、語学の天才で司馬遼太郎の『胡蝶の夢』の主人公の一人としても知られる司馬凌海（しばりょうかい）と伝えられています。

トップ画面の ENTER をクリックすると画像が左右に移動して、**図２**のコンテンツ画面で静止します。

マウスのカーソルをそれぞれの画像（サムネイル）に合わせると画面が左右に移動します。サムネイルをクリックすると史料の詳細が表示されます。

アーカイブは画面下の検索タブから西暦検索、史料名検索、形態検索の３通りの一覧検索ができます。西暦検索のタブをクリックすると時間軸が表示され、マウスで時間軸を左右にスライドさせることでその時代に関連する史料が画面表示されます。**図３**は1876年時点での関連資料を表示させた画面です。史料名検索では五十音順に史料名の一覧が表示され、関連する史料が画面表示されます。形態検索では古文書、図書、絵画・掛軸、図・絵葉書、写真、医療器具、その他の史料形態ごとの一覧が表示され、関連する史料が画面表示されます。

史料の説明はコンテンツ画面や検索画面でサムネイルをクリックすると表示されます。

図３　西暦検索

図２　コンテンツ画面

図４　詳細画面

図４はヨングハンスの契約状の詳細画面です。画面の右側にこの史料の作成年、形態と内容が表示され、下側には関連画像と関連リンクが表示されます。この史料の例では名古屋大学の大学文書資料室が発行している名大史ブックレット（デジタルブック版）「名古屋大学最初の外国人教師－ヨングハンス先生とローレツ先生－」へリンクされています。

サムネイルの左上の ⛶ をクリックすると、より鮮明な拡大された画像が表示され、複数の画像があればすべての画像を見ることができます。

詳細画面や拡大画像の右上にある ✕ をクリックすると元の検索画面に戻ります。

２．デジタルアーカイブのご紹介

さまざまな形態の史料からなるデジタルアーカイブですが、古文書、図書、医療器具の中から３点ご紹介します。

2-1　北越従軍銃創図譜

北越従軍銃創図譜は戊辰戦争の局面の一つである北越戦争（1868年）で旧幕府（北越）軍を追った官軍の従軍医が記録した手稿本です。

図５　北越従軍銃創図譜

当時、イギリスの公使医員ウィリアム・ウィリス（William Willis）は官軍の依頼で従軍し銃創治療に不慣れな日本人医師を指導しながらイギリス流の外科治療を戦傷者に施しました。その指導を受け治療に当たった筆者が、数10人の銃創治療の状況を図で記録したものです。**図５**の左図は簡略ながらクロロホルム麻酔による手術を記載したわが国最初の記録とされています。

2-2　愛知県立医学専門学校県立愛知病院新築落成式記念帖

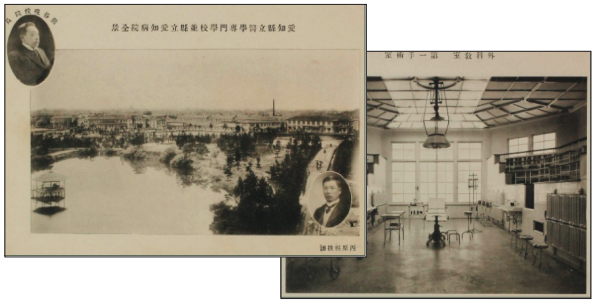


図６　全景と外科教室第一手術室

名古屋大学の前身校はいくどかの変遷を経ていますが、1903年（明治36年）に愛知県立医学専門学校と改称され、その後1914年（大正３年）に現在の医学部がある昭和区鶴舞町に移転しました。翌年の落成式を記念して発行された記念帖には1871年（明治４年）設立の仮医学校以来の沿革や現況のあらましが載録されています。**図６**は愛知県立医学専門学校と県立愛知病院の全景と外科教室第一手術室の写真ですが、当時の校舎や教室、病院の写真が数多く収録されています。

2-3　桐原式軟性胃鏡

官立の名古屋医科大学（1931－1939）の桐原真一教授は1932年にエルスナー式とシンドラー式の硬性胃鏡を購入して42名の患者の胃内観察をしました。翌年にはウォルフとシンドラーによる軟性胃鏡を改良し、器械技師武井勝に依頼して1937年２月に**図７**の桐原式軟性胃鏡を完成しました。

図７
桐原式軟性胃鏡

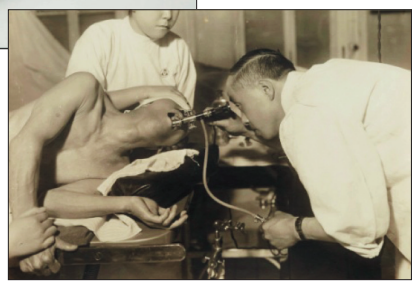


図８　桐原教授

この胃鏡は先端が手元の操作により前方に屈曲できます（**図８**）。桐原教授はこれらの胃鏡を使って600回以上も胃内観察を行い、胃の内部の写真撮影を試み、武井技師の協力のもとに苦心の末、成功しました。

３．デジタル化作業

今回のデジタル化作業では専門業者によるブックスキャナと写真撮影によるデジタル化を行いました。

写真撮影は**図９**のように医学部図書館４階のゼミ室が臨時のスタジオに変わり、医療器具などを撮影しました。また３階の閲覧室の壁面にある手術図は大きくて移動が困難なため、**図10**のようにその場をスタジオ風に模様替えして、史料室内の絵画２枚も運びだしてそこで撮影しました。

図９
４階ゼミ室の
臨時スタジオ

図10
３階閲覧室

４．医学部史料室

1971年に完成した医学部図書館にはすでに４階に100㎡の資料室がありました。しかし、**図11**のように今日の医学部史料室の姿となったのは1986年から1998年にかけて医学部1954年卒業生の同窓会である旧終会によって卒業30周年記念事業として整備されたおかげです。

図11　医学部史料室

医学部史料室の開室時間は平日の午前９時から午後５時までです。貴重な史料が多いため利用の際には２階にある受付カウンターに申請していただく必要があります。

おわりに

「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」は財団法人日本科学協会平成23年度笹川研究助成による「近代医学黎明期のデジタル教材の開発」の交付を受けて、史料のデジタル教材化を行いました。また、ホームページと検索システムは独立行政法人日本学術振興会平成23年度科学研究費補助金（奨励研究）による「図書館のなかの博物館」の交付を受けて作成したものです。

各史料の説明内容は医学部史料室の開設以来、整備に関わってこられた諸先生、諸先輩からの、言わば受け売りです。収集、保存、継承、そして利用者が必要とする情報を提供することが、医学部史料室を担当する職員の役割です。

医学部史料室を実際に訪れる利用者は比較的遠くからの利用者が多いことが特徴となっています。所蔵史料をインターネットにより公開することで利用者の便宜が格段に向上するとともに、さらに広範な利用が予測されます。このアーカイブが学習・研究などの利用面で多少なりとも貢献できるよう、今後も質・量ともに充実させていきたいと考えております。

（がもう・ひでひろ　医学部分館）

水田文庫付属資料等調査（1851年以降刊行図書）について

中　井　えり子

2009年度末に受け入れた水田洋名誉教授（以下、水田教授）の旧蔵書である水田文庫の目録は、2010年度中に国立情報学研究所のNACSIS-CATに登録され、名古屋大学附属図書館蔵書検索（OPAC）で検索できる。目録登録は外部委託したが、1851年以降に刊行された図書6,907冊の様々の挟み込み資料、蔵書票、蔵書印、および書き込みについては、後述するように目録の書誌・所蔵レコードには記載できないため、その有無を記載したデータを委託業者から受け取り、研究開発室で調査および処理を行った。本稿ではその調査内容を報告・紹介する。

1　挟み込み資料

受け入れ時に挟みこまれていた資料をおおまかに10種類に分類し、どのように処理したかを記しておく。以下は、水田教授および中央図書館の閲覧掛、図書情報掛とも相談のうえ対応したものである。

①納品書・請求書類　②出版社の広告チラシ・読者アンケート　③古書カタログの切り抜き　④本のカバー　⑤付箋（水田教授による製本指示）⑥謹呈の紙（署名入り）⑦新聞の切り抜き書評　⑧押し花は、原則として廃棄することとした。但し、③は今後参考になりそうな書誌的情報もあるため、研究開発室で保存する。また、④は書誌的に必要な部分を本体に貼付し、その他は廃棄、⑦は直筆サインのあるもののみ本体に貼付し、その他は廃棄とした。⑨水田教授宛の手紙類やメモは、水田教授に返却し、⑩月報は、保存処理をした。

新聞の切り抜き書評の取扱いについては、水田教授も一番悩まれた。図書に直接貼り付けられていたもの（後述）もあったが、挟み込まれただけの書評は、適切な保存管理方法も思いつかないということで、処分することとなった。

2　蔵書票

約70種類の蔵書票が貼られており、匿名が２点、団体が19点、残りの50点余が個人の蔵書票である。その中に日本人の蔵書票として、仙台伊達家31代当主、伊達邦宗（だて　くにむね、1870-1923、幼名は菊重郎）のものが１点あった。経済学を学ぶため、ケンブリッジ大学に留学中の1895年に入手したと考えられる政治経済学者のマカロック（McCulloch, John Ramsay, 1789－1864）著 *The principles of political economy*（London, 1870）の見返しに貼られている。サイズは58×59㎜で、「No. 171 K. Daté. St Peter's College Cambridge」とある。この蔵書票に重ねて「第一七一号　伊達邦宗蔵書」と印刷されたラベル（13×74㎜）も貼られている（**図１**）。このラベルの右側には、「No.171 K. Daté. St Peter's College Cambridge 1895」とペン書きもある。なお、図１の一番下の蔵書票は水田教授の蔵書票であ

図１　見返しの蔵書票

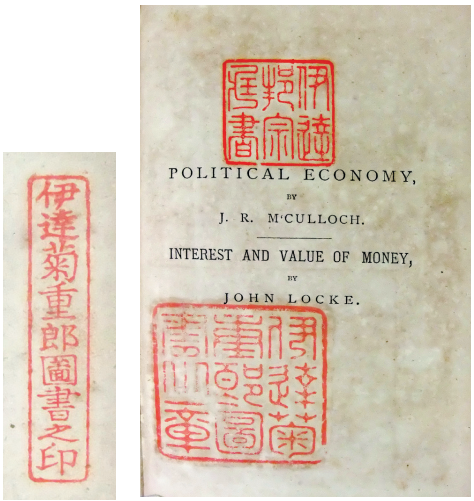


図２　略標題紙（右）と本文p. 25の蔵書印

る（40×70㎜）。さらに、３種類の蔵書印が略標題紙（**図２**）や本文中の複数ページに押印されている。略標題紙の小さい方（37×37㎜）が「伊達邦宗蔵書」、大きい方（59×57㎜）は「伊達菊重郎図書之章」で、渡辺守邦，後藤憲二編『新編蔵書印譜』（青裳堂書店，2001 日本書誌学大系　79所収）にも採録されている。また、「伊達菊重郎図書之印」という縦長の蔵書印（40×８㎜）は、本文中９箇所に押印されている。

次に、製作者が判明している蔵書票を紹介する（**図３**）。これはヴァージニア・ギフォード（Gifford, Virginia Mason, 1907-2003）が米国の眼科医である夫エドワード（Gifford, Edward Stewart, 1907-1994）のために製作したもので、ギプソン（Gipson, Lawrence Henry, 1880－1971）著 *To the history of the British Empire, 1748 - 1776*（New York, c1968）の見返しに貼られている（115×90㎜）。骸骨が老人の髭を引っ張っているいわくありげなデザインである。

図３　ヴァージニア・ギフォード製作の蔵書票

３　蔵書印

100余種類の蔵書印が押印されており、そのうち約50点が団体（機関）の蔵書印で、残りが個人のものである。日本の蔵書印は前述した伊達邦宗のような朱の角印が一般的であるが、海外のものは青や黒のゴム印が多い。また、日本、海外ともエンボス印によるものも含まれる。いずれもがシンプルなデザインのものが多く、さらに団体の蔵書印は、オックスフォードのボドリアン図書館などの大学図書館所蔵だったものが大半で、Sold、Withdrawn、Cancelledなど、廃棄したものであることを示す印も一緒に押印されていたり、インクがかすれていたりして判読できないことが多い。

ここでは、山田珠樹（やまだ　たまき、1893-1943）のエンボス印（**図４**）を紹介する。彼は

図４　山田珠樹のエンボス印

フランス文学者で、小説家の森茉莉（もり　まり、1903-1987、森鴎外の長女）との結婚歴がある。東京帝国大学附属図書館の司書官も務め、関東大震災後、姉崎正治図書館長とともに図書館の復興に尽力した。丸形のエンボス印（直径40㎜）で、漢字のほかにTAMAKI YAMADAとローマ字も併記されている。Pierre Trahard（1887-1986）著の*La sensibilité révolutionnaire*（*1789-1794*）（Paris, c1936）の標題紙に押印されているが、和紙に印刷されているというエジプトの葦舟をデザインした蔵書票は貼られていない。他には、『英国人名辞典』*The dictionary of national biography : from the earliest times to 1900* 等の編者の一人であるレッグ（Legg, L. G. Wickham（Leopold George Wickham）, b.1877）のスタンプ印やフィールディング（Fielding, Henry, 1707-0754）の研究者、ミラー（Miller, Henry Knight, 1920-）のエンボス印などもある。

４　書き込み等

旧所蔵者を示す蔵書票や蔵書印と異なり、書き込みの場合は、所蔵者の署名のほか、献辞や、内容についてのメモ等が含まれる。洋書に約320点、和書に約30点の書き込みがあり、明らかにわかるものだけで、著者から水田教授に献呈された図書が50点以上みられる。残りの約290点余は、旧所蔵者の署名や、著者や友人等からの献呈本で贈る言葉や日付が書かれたもの

である。エリック・ロル（Roll of Ipsden, Eric Roll, Baron, 1907-2005）がハーバート・ノーマン（Norman, E. Herbert, 1909-1957）へ贈った自著については、水田洋「ぼくの思想形成と蔵書形成」（『名古屋大学附属図書館研究年報』９号　2010　p.48）で言及されている。また、蔵書票の項で紹介したマカロックの編集によるスミスの『国富論』４版（エディンバラ　1853）には、英国の歴史家で実証主義者のビーズリー（Beesly, Edward Spencer, 1831-1915）へ宛てたマカロックの1855年の自筆署名が遊び紙の右上にある（**図５**）。匿名著作の著者を鉛

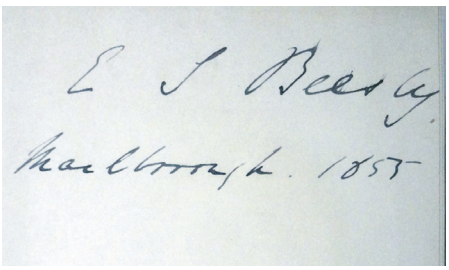


図５　マカロックの署名

筆書きで補記されているもの以外は、水田教授の書き込みはほとんどなく、ご自身も書き込みはしない主義とおっしゃる。その他、興味深いものとして、水田教授への献呈本に書かれた1948～1955年までイタリアの大統領だったルイジ・エイナウディ（Einaudi, Luigi, 1874-1961）の署名（図６）、バー「メッカ」殺人事件の犯人の父と考えられる正田伊三郎（しょうだいさぶろう）や『死よ驕るなかれ』（岩波新書）等で知られるアメリカのジャーナリスト、ノンフィクション作家であるジョン・ガンサー（Gunther, John, 1901-1970）の署名がある。また、小説家で伝記作家のストラウス（Straus, Ralph, 1882－1950）が、オスカー・ワイルド（Wilde, Oscar, 1854-1900）の息子ヴィヴィアン・ホランド（Holland, Vyvyan, 1886-1967）に宛てた署名もあり、このことは

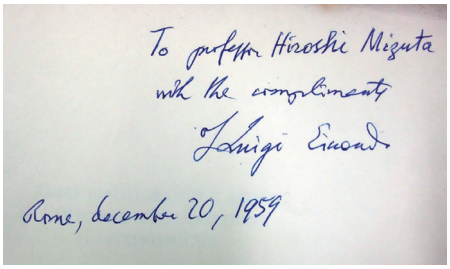


図６　エイナウディ大統領の署名

本の見返しにあった古書店のメモでわかった。なお、明らかに古書店のメモと思われる書き込みは、今回の調査では対象としていない。

また、これらの書き込みの他に主として和書であるが、『図書新聞』や『週刊読書人』などの新聞の書評記事が貼付してあるものが30点以上あった。

5　調査を終えて

本稿で紹介しなかったデータには、解読できていないものも多数あり、可能な限り調査を続けるつもりである。しかし、1800年以前刊行の西洋初期刊本については、個別の書誌レコードを作成することで対応ができることになっているものの、1801年以降の刊本については、原則として現在のNACSIS-CATの基準では、参加機関で書誌レコードを共有しているため、これらのデータを書誌レコードには記録できず、また所蔵レコードには記載できるフィールドはあるが、文字数が制限されているうえ、NACSIS Webcatでは見ることができない。図書の由来等を示すこれらのデータは、年代が新しいものでも様々な分野から、将来の研究に必要となる可能性を含んでいる。今後旧所蔵者を経て図書館に受け入れられる図書館資料も増えることが考えられるため、何らかの方法で記録・公開していくことが課題であろう。

＜主な参考文献＞

・『日本人名大辞典』講談社（オンライン版 Japan Knowledge　http://www.jkn21.com/contents/intro/cont_jinmei.html
・『日本大百科全書』全26巻　小学館　1984-1994（オンライン版 Japan Knowledge　http://na.jkn21.com/individualsearch/displaymain）
・Oxford dictionary of national biography. Oxford: Oxford University Press, 2004. 60 vols. (Online edition　http://www.oxforddnb.com/)
・MEDSpace (Duke Medicine Digital Repository) http://medspace.mc.duke.edu:8080/vital/access/HandleResolver/2193.1/14558

上記ウェブサイト参照日はすべて2011.12.9

（なかい・えりこ　附属図書館研究開発室研究員）

≪ブックトーク≫

新年度に向けて学生に読んで欲しい本!

気が付けば早いもので、新年度まであと二ヶ月半となりました。そこで、今回のブックトークは文学部の先生方から、新学年を迎える皆さんに読んでもらいたいオススメの一冊を紹介していただきました。

古代和歌史論
/ 鈴木日出男著　東京大学出版会　1990年刊

万葉集や古今集、あるいは百人一首の和歌に、人はなぜ感動を覚えるのだろう。名歌を名歌たらしめる所以はどこにあるのだろうか。序詞・掛詞・縁語・見立てなどの修辞技法は何のためにあり、どのような効果を発揮しているのだろうか。本書は、〈心物対応構造〉という観点から、古代和歌の表現のしくみを鮮やかに分析している。和歌とは、人の思いを相手に伝える、かけがえのないコミュニケーションの具であるが、そもそも人の心には、かたちも色もない。さまざまな花鳥風月（物）に託されることで、はじめて心は明確なかたちを持つ。心情叙述と物象叙述がほどよく対応するところに、和歌の叙情性が発揮されるのだと本書は説く。ともすれば文学史の研究書は、作品と作者の年代記的な記述に終始する無味乾燥なものになりがちだが、ことばの自立的な展開による文学史をめざしているところに本書の魅力がある。千頁にも及ぶ大著であり、気軽に読み通せるものではないが、日本の古典だけでなく、文学に興味を持つ人に広くお勧めしたい本である。

〈所蔵：中央館ほか〉

大井田晴彦先生（日本文化学）

ロンドンで本を読む―最高の書評による読書案内
/丸谷才一編著　光文社　2007年刊

本をどこで読むかはページをめくる人の勝手であろう。まじめに机の前で読む必要はない。移動の電車内で物想いに耽りながら、ときに居眠りしながら読むのは私にとって至福の時間である。とりわけ楽しみなのはイギリスの新聞や雑誌の書評である（正確に言えば本についての文章か）。短い時間で本の内容を把握できるというのが魅力なのではない。英米の「ジャーナリスト批評家」たちは、流暢で個性に富み、ときに皮肉やユーモアたっぷりに本をネタにして、「見識と趣味を披露し、知性を刺戟し、あわよくば生きる力を更新」してくれるのである。丸谷才一が編集したこの本『ロンドンで本を読む』には、彼らが書いた生きた書評が詰まっている。ミラン・クンデラやプルーストからはじまり、紫式部、遠藤周作、さらにはマドンナ写真集について第一級の批評家たちが書いた書評が、卓越した訳で味わえる。書評は文学を文明や文化とつなげながら読み解くことを教えてくれる最高の教室だと実感できる一冊である。

〈所蔵：中央館(予定)〉

大石和欣先生（英米文学）

王朝絵画の誕生―『源氏物語絵巻』をめぐって / 秋山光和著　中央公論社　1968年刊

日本美術史研究の古典です。「源氏物語絵巻」（徳川美術館・五島美術館）を主軸に、作品分析の手法を多角的に提示しています。「源氏物語絵巻」の成立にいたる平安絵画史の概観というマクロな視点から、赤外線写真を用いた作品細部の観察というミクロな視点まで、幅広く作品の特質が検討されています。何よりも、本書の冒頭に描かれている作品との美的な出会いの場面は感動的です。その感動が研究の原動力となって、いかに美しいものが美しく構築されるのかを徹底的に追究してゆく研究者の凄みも感じられます。そして美しいものを素直に美しいと言えた古きよき時代のノスタルジーも漂ってきます。今や美術品は差別と抑圧の装置として描き出されることが多くなりました。美は権力と裏腹の関係にあり、美を無条件に美として扱うのはナイーヴな態度とされてきています。ですが本書は、美術研究の原点が、つまるところ美への素直な感動にあることを再確認させてくれます。

〈所蔵：中央館ほか〉

伊藤大輔先生（美学美術史学）

ようこそ法学図書室へ

藤　井　洋　子

法学図書室は、東山キャンパスの西南に位置する法学部棟の１階にあります。法学部棟に南玄関から入るとすぐ左手に見えるのが図書室の入口です。

法学図書室は過去の改修の際、現在の法経共用棟の２階から移設され、今の場所に設置されました。その頃の名残で、所蔵図書の多くが配架されている第１書庫が法学図書室から離れた法経共用棟の２階に残っており、職員や入庫を許可された利用者が図書の出納のために頻繁に図書室と書庫とを往来します。

通常は平日の９時から20時まで開室しています。ただし３月、８月には夜間開室がなくなり17時までの開室となります。

法学図書室入口付近

法学図書室の自動扉を通ってすぐ左手にカウンターがあります。入室する場合はまずこちらで身分証を預け、荷物がある場合はロッカーの鍵を受け取ります。図書室内には鞄類を持ち込めないため、筆記用具類以外はロッカーに預けてください。

カウンターから数歩進んだ左手にロッカーがあり、右手側に振り向くと研究成果コーナーがあります。ここには法学研究科教員の著作が展示されていて、教員の研究内容を一覧することができます。このコーナーの図書は貸出できませんが、同じ本が書庫に貸出用に配架されていますので、貸出にはそちらをご利用ください。

通路をさらに進むと新着図書展示、新着雑誌の展示架が見えてきます。

研究成果コーナー

法学図書室…というと、「六法全書」をまず思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。六法を中心に基本的な法令を収録している「六法全書」のみでなく、「税務六法」「金融六法」等の分野ごとの六法も一部ですが所蔵しています。

閲覧室

六法類が配架されている書架と参考図書の書架の間にあるのが法学図書室の閲覧席です。４脚のテーブルに椅子が各４脚、全16席設置されています。広くはないのですが、ここで図書を閲覧したり、授業の予習復習を行ったり、複写

物の整理をしたりする利用者の姿が見られます。閲覧席の周囲には生協のコピーカードが利用できる複写機が２台、校費用複写機が２台、情報検索用のコンピュータが５台設置されています。

図書室入口から延びる通路の左手が閲覧スペースですが、反対の右手には２つの雑誌書庫があります。通路の奥側から和雑誌が五十音順で配架され、その後ろに洋雑誌が続きます。よく「『民集』どこですか？」「『刑集』ないですか？」等尋ねられることが多いのですが、それぞれ「最高裁判所民事判例集」「最高裁判所刑事判例集」の通称ですので、和雑誌「さ」の場所をお探しください。

「本が見つからないのですが…」

初めて入室した利用者から、こんな風に尋ねられることがあります。その通り、図書室の中には参考図書、新着図書、六法全書や雑誌はあれど、その他の一般図書は見当たりません。

それもそのはず、法学図書室の所蔵図書はほとんどが図書室から離れた書庫に配架されていて、図書室内には無いのです。しかも三つの書庫に分散しています。法経共用棟２階の第１書庫には政治・法律関連の図書が配架されていますが、図書室とは別の部屋にあたる第３書庫にはそれ以外の主題の図書が、第２書庫にはロシア語、中国語、韓国語の図書が配架されています。マイクロ資料室という部屋もあります。

第１書庫

法学研究科・経済学研究科・国際開発研究科の教員、院生は書庫の鍵を借りて直接入庫できます。それ以外の方は職員が閲覧希望図書を出納しますので、OPACで図書の情報を調べた後ご依頼ください。書庫が離れているため多少時間がかかることがありますが、出来るだけお待たせすることなくお渡しできるよう心がけています。

法学図書室では貴重書や和装本も所蔵しています。オープンキャンパスやホームカミングデイの際には展示することもあり、本年度のホームカミングデイでは附属図書館との共同企画として、中央館所蔵のモンテスキュー『法の精神』初版等と一緒に法学部所蔵資料も展示を行いました。法学部棟から法経共用棟に向かう廊下の左手には「法学部ギャラリー」として法制関係資料が展示されたガラスケースが設置され、いつでもご覧いただけますので、興味がある方は一度お越しください。

また、所蔵しているコレクションとしては、刑法学者で元京都大学総長の瀧川幸辰博士の旧蔵書・旧蔵資料である瀧川文庫があります。大正11－13年のドイツ留学中に蒐集された刑事法学、法律学、社会科学、哲学、歴史学等に関する諸文献を中核とする約11,000点の資料です。

貴重書室配架資料

その他、法判例データベースや関連分野の文献データベースを利用することもできます。一部は法学図書室内のみでの利用となりますが、全学で利用できるデータベースもあります。

法学図書室は他部局所属者や学外の方にも利用していただけます。探している資料が見つからないなどお困りのことがあれば、お気軽に職員に声をおかけください。学習・研究に法学図書室が貢献できるよう、努めていきます。

（ふじい・ようこ　法学図書室）

秋季特別展「そろばんと和算書」を開催しました

附属図書館と同館研究開発室は、2011年秋季特別展「そろばんと和算書－日本の計算文化にふれる－」を10月14日（金）から11月４日（金）まで開催しました。

今回の展示では、江戸時代後期から幕末にかけて、庶民がいかに計算に熱中していたかを、様々なそろばんや和算書、算額をとおして紹介しました。珍しい「百桁そろばん」などの多様なそろばんや、和算書の「塵劫記」に関連する資料をはじめとする刊本や写本、数学の絵馬といわれる算額などによる数学の歴史を感じられる展示で、一般市民など1600名を超える多数の来場者がありました。

展示会場の様子

また、展示室に併設された体験コーナーでは、小学生や中学生、高校生が算数や数学パズルに挑戦していました。

10月29日（土）には、藤本保紀氏の「そろばんの繪・色色」と、深川英俊氏の「和算書と算額」の２講演が行われ、80名近くの市民や学生、教員などが参加しました。身近なそろばんや数学の歴史を物語る和算書や算額についての講演に、質問も多くなされ、講演会終了後には、多くの参加者が展示室に移動し、講師による展示解説を興味深く聞きながら、熱心に展示に見入っている姿も見受けられました。

ホームカミングデイ図書館行事

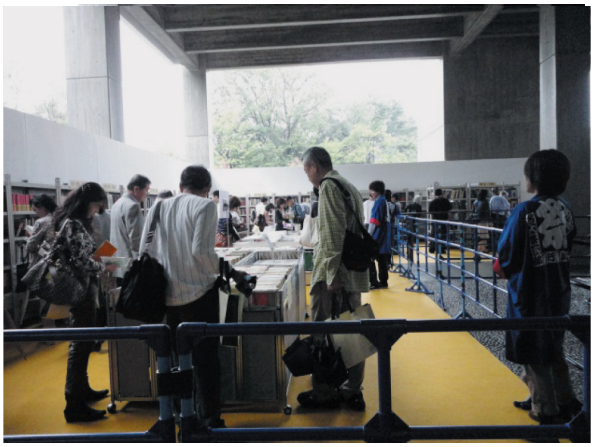
地域と大学で考える未来を耕す「人・緑・食」をテーマに、第７回の名古屋大学ホームカミングデイが10月15日に開催されました。

中央図書館でも、スタンプラリー、図書館体験・見学ツアー、見て分かる図書館、オープンライブラリーの行事を行い、全体で214人の参加者がありました。特に、今回から始めたスタンプラリーでは、参加した子供たちが、館内に９ヶ所用意されたポイントでクイズに答えながら、館内を楽しそうに巡っていました。

同時開催中の秋季特別展「そろばんと和算書－日本の計算文化にふれる－」には、146人もの観覧者がありました。

また、HCDミュージックプロムナードとして、サクソフォーンジャズカルテットの演奏がエントランスで４回行われ、ホームカミングデイの参加者だけなく、通りかかった図書館利用者も思わず耳を傾けていました。

豊田講堂南側ピロティで開催された本のリユース市は、昨年同様好評で981人の来場者があり、1,032冊、113,600円の売り上げとなりました。この本のリユース市は、学内で不要となった図書を有効に活用しようという趣旨で始まったものです。本の売り上げは、学生によって選書される「ブックハンティング」の費用に充てられます。来場者からは、「レベルの高い本が安く買えて良かった。」「大学生の昔に戻った感じ」との感想もいただきました。



本のリユース市の様子

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成23年９月－平成23年11月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

（寄贈者の敬称は略します。）

所　属	寄贈者名	寄　贈　資　料　名	資料ＩＤ	配置場所
名　誉　教　授	中村　正秋	初歩から学ぶ乾燥技術	11749456	中央学３Ｆ 571.6/N
名　誉　教　授	中村　正秋	はじめての乾燥技術	11760064	中央学３Ｆ 571.6/N
理学研究科	篠原　久典	炭素学：基礎物性から応用展開まで	11765400	中央学３Ｆ 435.6/Ta
教育発達科学研究科	本城　秀次	乳幼児精神医学入門	11761583	中央学３Ｆ 493.937/H
理学研究科	棚橋　誠治	坂田昌一コペンハーゲン日記：ボーアとアンデルセンの国で	11763019	中央学３Ｆ 289.1/Sa
文学研究科	釘貫　亨	ことばに向かう日本の学知：名古屋大学グローバルCOEプログラム	11764091	中央学３Ｆ 810.12/Ku
理学研究科	高木　秀夫	量子論に基づく無機化学：群論からのアプローチ	11708439	中央図１Ｆ 435/Ta
名　誉　教　授	柏瀬　和司	入門光学：実験を楽しみ光の不思議を探る	11766198	中央図１Ｆ 425/Ka
名　誉　教　授	河野　正憲	Cross border insolvency, intellectual property litigation, arbitration and ordre public	41536597	中央図１Ｆ 329.5/St

＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃［行事等］＜23. 9. 6 ～ 23. 12. 5＞＃＃＃＃＃＃＃＃＃＃

・平成23年度図書館等職員著作権実務講習会（名古屋大学）参加者：上田知寿子（医）、福田美穂（教）、薮本佳壽子（教）、山本智恵美（国開）、高野悦美（国開）＜9/7－9＞

・平成23年度東海・北陸地区国立図書館協会研修会（富山大学五福キャンパス）参加者：端場純子（国開）＜10/3＞

・平成23年度大学図書館職員短期研修（京都大学）参加者：鈴木美奈子（中）＜10/4－7＞

・平成23年度学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大学附属図書館）参加者：堀友美（中）、正中知子（工）＜10/19－21＞

・平成23年度目録システム講習会（国立情報学研究所）参加者：福田美穂（教）、鈴木倫子（国開）＜10/26－28＞

・平成23年度東海地区国立大学法人等目的別研修（プレゼンテーション研修）参加者：夏目弥生子（中）、棚橋是之（文）＜10/27－28＞

・第31回西洋社会科学古典資料講習会（一橋大学）参加者：小嶋悦子（中）、澤口由好（中）、粟野容子（中）、山口典子（法）＜11/9－11＞

・平成23年度愛知県図書館デジタルライブラリーセミナー（愛知県図書館）参加者：浅見沙矢香（医）、大塩和彦（農）＜12/2＞

編集委員会

岡部　幸祐（委員長）　武藤真由美（中）
小出　哲子（中）　真野　博和（中）
仲秋　雄介（情文）　杉江　美穂（経）
田中　幸恵（理）　渡辺千恵子（医）

館燈（かんとう）：名古屋大学附属図書館報　No.182　2012年１月15日　名古屋大学附属図書館発行
〒464-8601　名古屋市千種区不老町　電話（052)789-3684（ダイヤルイン）